

震災遺構保全と活用策の検討に関する研究

研究代表者：岩田智（宮古短期大学部・教授）、研究参加者：大志田憲（宮古短期大学部・准教授）、齋藤香織（宮古短期大学部・講師）、中川仁美（宮古短期大学部・講師）

<要旨>

本研究の最終年度になる本年度は、昨年に引き続き震災遺構としてすでに活用されている各地の震災遺構を活用した代表的事例を調査した。

震災遺構を活用した被災地観光の実証実験として初年度北三陸鉄道を活用して実施した「三陸ゼミ列車」事業を、最終年度では南三陸鉄道を活用した「三陸鉄道南リアス線ゼミ列車」事業として実施した。

1 研究の概要

本研究は、東日本大震災における震災遺構保全と活用策の検討に関する資することを目的としている。具体的には、東日本大震災の震災遺構は、三陸沿岸各地に点在している。たとえば、宮古市田老に所在する「たろう観光ホテル」は、東日本大震災の震災遺構として、鎮魂・後世に向けて防災・減災に役立つものとして保存することが決定している。そこで、本研究では、震災遺構を①鎮魂②災害文化の伝承③次世代への継承（学びの場）としての活用策、具体的には震災遺構の観光施設化等を考察した。

2 研究の内容

昨年度の研究成果を受けて、本年度は震災遺構保全と活用策の実施調査をかねて、三陸鉄道南リアス線を利用したゼミ列車事業を実施した。この事業の実施内容は、宮古短期大学部にてバス乗車、三陸鉄道釜石駅にて臨時列車に乗車し車内において三陸鉄道社員による震災について講演してもらい、吉浜駅にて下車、バスに乗車し根白漁港に移動、そこで漁師からなる吉浜元気組による「震災～浜復活への取組み」についての体験談を拝聴、漁業特産品の加工体験を実施、地元漁業者との対談、その後、根白漁港を出発、越喜来地区、大船渡地区の復興現場を車窓から視察し、盛駅にて三陸鉄道に乗車、釜石駅にて下車するまで列車内で講義を実施した。釜石駅にてバスに乗車し、鶴住居地区を視察した。

3 これまで得られた研究の成果

研究メンバー変更等により当初の目標若干の相違は生じたものの3年計画の最終年度である平成 28 年度においては、南三陸鉄道を活用した「三鉄ゼミ列車」の企画も実施し、当初も研究目的を概ね達成している。これまでの研究成果の一部は、平成 28 年 6 月 11 日に青山学院大学で開催された日本観光学会第 109 回全国大会において口頭発表している。



岩手日報 2016/10/9 (掲載許可済み)

4 今後の具体的な展開

しかし、震災遺構だけでは観光資源としては不十分であり、平成 29 年度はこの研究目的を発展した「大規模震災地域である岩手県三陸沿岸地域における観光復興に関する総合的研究」に取り組む予定である。